

大崎市民病院医療事故の公表について（包括的公表）

令和7年10月 1日～令和8年 3月31日に発生した医療事故は次のとおりです。

レベル3bまたは4aに該当する件数

3b	濃厚な処置や治療を要した（バイタルサインの高度変化，入院日数の延期，外来患者に入院，手術，骨折）	14 件
4a	永続的な障害や後遺症が残ったが，有意な機能障害や美容上の問題を伴わない	0 件

このうち，他の医療機関の事故防止につながると考える事例を，下記のとおり掲載します。

No.	概要	原因	改善・対応策
1	<p>抜去予定の膀胱留置カテーテルの自己抜去による尿道損傷のため入院日数が延長した</p> <p>転院調整開始のためフォーレ抜去の方針であったが，膀胱内のバルーンが膨らんだままの状態ですべて患者自身によって抜去された。尿道損傷のため血尿を認め，血尿による血塊でカテーテルが閉塞するのを防ぐために再度挿入されたカテーテルから持続的に生理食塩水を注入し排液する治療が開始された。</p>	自己抜去による尿道の損傷	不要になったカテーテルは早期に抜去する。
2	<p>せん妄による膀胱留置カテーテルの自己抜去のため尿道損傷を発生し入院期間が延長した</p> <p>排尿がないため膀胱留置カテーテルが留置された。時折，せん妄症状を認めていたが危険な行為がないため身体拘束は解除されていた。訪床した際に，自己抜去し尿道から出血している状態で発見された。</p>	・せん妄による自己抜去時の尿道の損傷	・せん妄スクリーニングツール（DST）を活用し，48時間の状態を項目に沿って評価しながら，せん妄の促進因子であるカテーテルが目につかないようなケアの検討をする。